

ゲーム・チェンジャーズ： 感染症と闘う日本のイノベーション

Game Changers—Japanese Innovation in
Combatting Infectious Diseases



JCIE

FGFJ

GHIT

Fund

2023年3月1日（水）16:00-18:00 JST (UTC+9)

主 催

日本国際交流センター（JCIE）

グローバルファンド日本委員会（FGFJ）

グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）

会 場

ホテルニューオータニ

Wednesday, March 1, 2023, 16:00-18:00 JST (UTC+9)

Co-organized by

Japan Center for International Exchange (JCIE)

Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ)

Global Health Innovative Technology Fund (GHIT Fund)

Venue

Hotel New Otani Tokyo

ゲーム・チェンジャーズ：感染症と闘う日本のイノベーション プログラム

開会挨拶

大河原 昭夫 日本国際交流センター理事長、グローバルファンド日本委員会ディレクター

逢沢 一郎 衆議院議員、グローバルファンド日本委員会共同議長

対談「三大感染症の収束に向けた課題とイノベーションへの期待」

ピーター・サンズ 世界エイズ・結核・マラリア対策基金事務局長

伊藤 聡子 日本国際交流センター執行理事、グローバルファンド日本委員会事務局長
(※登壇者が変更となりました)

スペシャル・リマークス「公平なアクセスのための連携」

原 圭一 外務省国際協力局審議官、グローバルファンド理事、ユニットエイズ理事

カルメン・ペレス・カサス ユニットエイズ戦略チーム シニア・テクニカル・マネージャー
(オンライン)

パネル・セッション「ゲームチェンジャーをいかに早く広く現場に送り出すか？」

國井 修 グローバルヘルス技術振興基金 CEO (モデレーター)

加藤 誠也 結核予防会理事、結核研究所所長

岡田 美広 富士フイルム株式会社メディカルシステム事業部 IVD イノベーション部長

川崎 昌則 大塚製薬株式会社 医薬品事業部 抗結核プロジェクト グローバルプロジェクトリーダー

狩野 繁之 国立国際医療研究センター熱帯医学・マラリア研究部長

金子 洋介 SORA Technology 株式会社創業者兼 CEO

ピーター・サンズ 世界エイズ・結核・マラリア対策基金事務局長

閉会挨拶

井谷 哲也 厚生労働省大臣官房国際課国際保健・協力室長

Game Changers – Japanese Innovation in Combating Infectious Diseases

PROGRAM

Opening remarks

Akio Okawara, *President & CEO, Japan Center for International Exchange (JCIE); Director, Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ)*

Ichiro Aisawa, *Member, House of Representatives; Co-Chair, FGFJ Advisory Board and Diet Task Force*

Talk session: Challenges and Innovation to End Epidemics

Peter Sands, *Executive Director, The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria (The Global Fund)*

Satoko Itoh, *Managing Director and Chief Program Officer, Japan Center for International Exchange (JCIE); Assistant Director, FGFJ (interviewer)*

Special remarks: Partnership for Equitable Access

Keiichi Hara, *Director-General, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs (MOFA); Board Member of the Global Fund; Board Member of Unitaid*

Carmen Pérez Casas, *Senior Technical Manager, Strategy Team, Unitaid (online)*

Panel discussion: Deploying Game Changing Innovation on the Ground

Osamu Kunii, *CEO, Global Health Innovative Technology Fund (GHIT Fund) (moderator)*

Seiya Kato, *Director, Research Institute of Tuberculosis, Japan Anti-Tuberculosis Association (JATA)*

Yoshihiro Okada, *General Manager, In Vitro Diagnostics Division, FUJIFILM Corporation*

Masanori Kawasaki, *Global Project Leader, Anti-Tuberculosis Project, Pharmaceutical Division, Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.*

Shigeyuki Kano, *Director, Department of Tropical Medicine and Malaria, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine (NCGM)*

Yosuke Kaneko, *Founder & CEO, SORA Technology*

Peter Sands, *Executive Director, The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria*

Closing remarks

Tetsuya Itani, *Director, Office of Global Health Cooperation, Ministry of Health, Labour and Welfare*

登壇者プロフィール

大河原 昭夫

公益財団法人 日本国際交流センター理事長、グローバルファンド
日本委員会ディレクター



40年にわたる国際ビジネスや日米関係をはじめとする政治経済の調査・分析の知見を活かし、日本国際交流センター（JCIE）の諸活動を主導する。ベルリン日独センター評議員を務めるほか、JCIEの事業として日英21世紀委員会日本側ディレクター、日韓フォーラム幹事委員、外国人材の受入れに関する円卓会議座長、グローバルヘルスと人間の安全保障プログラム運営委員会幹事、グローバルファンド日本委員会ディレクター等を務める。2015～2020年には日米文化教育交流会議（カルコン）委員を務めた。2014年4月に現職に就任する前は、住友商事株式会社に勤務、1991年ワシントン事務所次席、2001年情報調査部長、2006年より2013年まで住友商事総合研究所取締役所長を歴任。1973年慶應義塾大学法学部卒。

逢沢 一郎

衆議院議員、グローバルファンド日本委員会 議員タスクフォース
共同議長



岡山県岡山市出身、慶應義塾大学工学部卒業、（財）松下政経塾一期生。昭和61年衆議院議員選挙で初当選、以来12期連続当選。通商産業政務次官、外務副大臣、自民党幹事長代理、自民党国会対策委員長、衆議院予算委員長、衆議院議院運営委員長、衆議院政治倫理審査会長等を歴任する。自民党選挙制度調査会 会長、UNHCR 国会議員連盟 会長、日本・アフリカ連合友好議員連盟 会長、日豪議員連盟 会長、日本・ミャンマー友好議員連盟 会長、ボーイスカウト振興国会議員連盟 会長他。

ピーター・サンズ (Peter Sands)

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）
事務局長



英国外務省、マッキンゼー・アンド・カンパニーでの勤務を経て、新興国・地域を主なマーケットとする英スタンダード・チャータード銀行グループの最高財務責任者に就任。2006～15年まで同行の最高経営責任者として、事業や利益を拡大し、政府援助を受けず欧州経済危機

を回避したことで知られる。任期中、発展途上国の保健に重点を置く同銀行の CSR プログラムを統括し、寄付やロジスティック支援などエイズやマラリア対策に貢献した。その後、グローバルヘルス分野に身を投じ、ハーバード・グローバルヘルス研究所およびハーバード大学ケネディ・スクールのモサヴァー・ラーマニ政治経済センターのリサーチフェローに就任。金融界での豊富な経験を生かしグローバルヘルス財政分野で活躍、2015～16年には、米国医学アカデミーの「グローバルヘルス・リスクフレームワーク委員会」の委員長、2016～17年には、世界銀行の「パンデミックに備えるファイナンスに関する国際ワーキング・グループ」の議長を務めた。2018年3月にグローバルファンド事務局長に就任。オックスフォード大学卒業、ハーバード大学大学院公共経営学修了。

伊藤 聡子

公益財団法人 日本国際交流センター 執行理事、グローバルファンド
日本委員会事務局長



1988年に日本国際交流センター入所、2012年4月より現職。民間非営利セクターの基盤整備や企業市民活動促進のための諸事業に従事した後、2004年よりJCIEのグローバルヘルス関連の諸事業を統括する。世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）の活動を支援する日本の民間イニシアティブ「グローバルファンド日本委員会」の事務局長を務める。2021年7月～2022年5月、内閣官房グローバルヘルス戦略有識者タスクフォース構成員。慶応義塾大学卒、ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）修士課程修了。

原 圭一

外務省国際協力局審議官（地球規模課題担当）

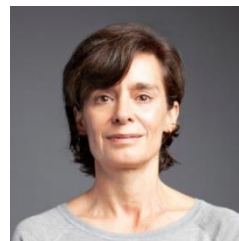


1992年4月に外務省入省。セネガル勤務後、本省で仏語圏アフリカ諸国を担当し、森総理による歴代総理初のアフリカ訪問を準備。その後、逢澤外務副大臣の秘書官としてイラク邦人人質事案等を支援。フランス勤務後、本省でASEANを担当し、2008年に第1回日中韓サミット開催を準備。その後、予算担当としてODAをはじめ外務省予算確保に関与。欧州担当課長としてEU・NATOとの安全保障面での協力を進め、2014年に安倍総理によるNATO北大西洋理事会での演説を実現。アフガニスタン・ASEAN諸国等に対するODA担当課長を務めた後、アフガニスタン・中国に勤務。中国では新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ在留邦人の国外退避を支援。その後、国際協力局参事官（地球規模課題担当）を経て2022年9月より現職。また、グローバルファンド及びユニットエイズの理事会理事を務める。1992年3月に東京大学法学部卒業。1995年に仏トゥールーズ第一大学にて修士号（国際法・欧州法）。

カルメン・ペレズ・カサス (Carmen Pérez CASAS)

ユニットエイド戦略チーム シニア・テクニカル・マネージャー

2012年にユニットエイドに入職し、現在戦略チームのシニア・テクニカル・マネージャーを務める。医薬品政策、パートナーシップ、戦略立案、助成金開発、評価において20年以上の経験を持ち、ユニットエイドに入る以前は、国境なき医師団やグローバルファンドなどの国際保健機関において、医療アクセスに立ちはだかる障壁を克服し、資源が限られた環境下で最良の治療薬と診断薬へのアクセス拡大に取り組んできた。薬学の学士号とウイルス学の修士号を取得。



國井 修

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) CEO・専務理事

医学士 (自治医科大学)、公衆衛生学修士 (ハーバード大学)、医学博士 (東京大学)、僻地医療 (栃木県栗山村)、国立国際医療センター、東京大学大学院専任講師、外務省調査計画課課長補佐、長崎大学熱帯医学研究所教授を経て、2006年より国連児童基金ニューヨーク本部にて上席保健戦略アドバイザー、ミャンマーやソマリアにて保健・栄養・水衛生事業部長。2013年より世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバルファンド) の戦略・投資・効果局長、2022年よりグローバルヘルス技術振興基金 (GHIT) 最高経営責任者 (CEO)。



加藤 誠也

公益財団法人結核予防会結核研究所所長

1981年に札幌医科大学医学部卒業後、約12年間、呼吸器内科医として勤務、1993年1月より札幌市保健所及び本庁で公衆衛生業務に従事、2000年4月財団法人結核予防会結核研究所入職後、対策支援部長、その後研究部長、副所長を経て2017年4月より所長。この間2000年8月より約3年間 JICA によるフィリピン結核対策プロジェクト チーフアドバイザーとして派遣された。2006年から2023年1月まで厚生科学審議会結核部会の委員 (2013年から部会長)。2018年6月から現在まで WHO 本部 Strategic and Technical Advisory Group for Tuberculosis (STAG-TB) メンバーまた、2019年12月から WHO 西太平洋事務局 Technical Advisory Group for Tuberculosis (TAG-TB) メンバー。臨床医、行政経験を持ち、日本及び世界の結核対策に貢献している。



岡田 美広

富士フイルム株式会社 メディカルシステム事業部
IVD イノベーション部長



国内の電機メーカーで複数の電子製品の開発に携わった後、2006年に富士フイルムに入り、メディカルシステム事業の R&D 部門に合流。デジタル X 線事業の立ち上げに貢献。

また、ドライ試薬を用いた生化学分析装置、感染症用イムノクロマトキットなど、多岐にわたる医療機器製品の開発をリード。2017年より IVD R&D 部門長に就任し、銀増幅技術を採用した複数のイムノクロマト製品の開発に従事。

また、FUJIFILM SILVAMP TB LAM(FujiLAM)を含む IVD 製品を生産するベトナム製造会社の設立を主導。2021年より現職。

川崎 昌則

大塚製薬株式会社 医薬品事業部 抗結核プロジェクト
グローバルプロジェクトリーダー



1998年に大塚製薬株式会社に入社し、抗菌剤の探索研究に従事。2009年から米国大塚メリーランド研究所に出向、2011年からは米国大塚ファーマシューティカル D&C で抗結核薬や結核診断薬の開発に従事。2014年からは東京本部で抗結核薬デラマニドのグローバルアクセスや新規抗結核薬の開発などに従事し、2020年から現職。「多剤耐性結核菌に有効な新規抗結核薬デラマニドの研究開発」で文部科学省から2016年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞。北海道大学農学部・同大学院農学研究科卒業。

狩野 繁之

国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部長



群馬大学医学部卒業後、同大学大学院博士課程を修了。医学部寄生虫学・助教授を経て、1998年から現職。タイ王立マヒドン大学客員教授、フィリピン大学客員教授なども務めながら、同地域のマラリア対策研究を継続している。2013年からはラオス国立パスツール研究所と SATREPS プロジェクトでマラリアの研究開発を展開している。2017年からは4年間、グローバルファンドのマラリア技術評価委員(TRP)を務めた。2018年からグローバルファンド日本委員会アドバイザーボードメンバー。2022年、これらの業績に外務大臣表彰。

金子 洋介

SORA Technology 株式会社 創業者兼 CEO

アクセントチュア株式会社戦略部門、Terra Drone 株式会社 Chief Strategy Officer、JAXA 航空技術部門災害対応航空技術チームを経て、2020 年よりグローバルヘルス・人道支援領域におけるドローン・空飛ぶクルマ等のエアモビリティ技術を提供する SORA Technology 株式会社を設立。JAXA では、災害時にヘリコプター・ドローンと災害対策本部などで情報共有を行うことにより、より効率的な救援活動を実現する「災害救援航空機情報共有ネットワーク（D-NET）」の研究開発に従事し、東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける空域統制、運用支援等に貢献。慶應義塾大学経済学部卒業。



井谷 哲也

厚生労働省大臣官房国際課 国際保健・協力室長

2004 年外務省に入り、地球環境、科学技術、宇宙などの分野別外交政策、開発協力政策及び政府開発援助（ODA）予算、国際連合及び専門機関をはじめとする国際機関等を担当。2019 年から 2022 年、在マレーシア日本国大使館政務部長として、コロナ禍における対応に尽力。2022 年 7 月より現職。神戸大学法学部卒。



関連情報

グローバルファンド日本委員会 (FGFJ)

グローバルファンド日本委員会は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）を支援する日本の民間イニシアティブ。グローバルファンドに対する理解を促進するとともに、感染症分野における日本の役割を喚起し、政策対話や共同研究、国際シンポジウム、視察プログラム、一般向けの意識啓発などを実施しています。（公財）日本国際交流センターのプロジェクトとして運営されています。

グローバルファンド日本委員会 <http://fgfj.jcie.or.jp/>

（公財）日本国際交流センター <https://www.jcie.or.jp/japan/>

グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund)

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) は、日本政府（外務省、厚生労働省）、製薬企業などの民間企業、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ウェルカム、国連開発計画が参画する国際的な官民ファンドです。世界の最貧困層の健康を脅かすマラリア、結核、顧みられない熱帯病 (NTDs) などの感染症と闘うための新薬開発への投資、ならびにポートフォリオ・マネジメントを行っています。治療薬、ワクチン、診断薬を開発するために、GHIT Fund は日本の製薬企業、大学、研究機関の製品開発への参画と、海外の機関との連携を促進しています。詳しくは、<https://www.ghitfund.org> をご覧ください。

世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバルファンド)

グローバルファンドは、低・中所得国の三大感染症対策を支える官民連携基金。G7 をはじめとする各国の政府や民間財団、企業など、国際社会から大規模な資金を調達し、低・中所得国が自ら行う三疾病の予防、治療、感染者支援、保健システム強化に資金を提供しています。2002 年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップにより、5000 万人の命を救うことができました。2020 年以降の新型コロナ対策では、ACT アクセラレーターの主管機関として、検査、保健システム、治療で大きな役割を担ってきました。2000 年の G8 九州・沖縄サミットで、議長国日本が感染症対策を主要課題として取り上げ、追加的資金調達と国際的なパートナーシップの必要性について G8 諸国が確認したことが、グローバルファンド設立の発端となりました。このことから、日本はグローバルファンドの「生みの親」のひとつとされています。

<https://www.theglobalfund.org/en/>

Biographical notes

Akio OKAWARA

President & CEO, Japan Center for International Exchange (JCIE); Director, Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ)

Akio Okawara is president and CEO of the Japan Center for International Exchange (JCIE), one of the leading independent, non-profit organizations in the field of international affairs in Japan. He assumed the position in April 2014 after a long career in international business. He is concurrently a member of the Foundation Council of the Japanese-German Center Berlin. At JCIE, he also serves as Japanese director of the UK-Japan 21st Century Group, chair of the Roundtable on Japan's Migration, and director of the Global Health and Human Security Program Executive Committee and of the Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ), among others. Prior to joining JCIE, he was executive director of the Sumitomo Shoji Research Institute from 2006 to 2013, where he oversaw research and analysis on domestic and international political and economic trends. He started his career at Sumitomo Corporation in 1973 and served in the automotive, overseas transport, and research departments during the span of his 40-year career with the company, including several assignments in the United States. Mr. Okawara graduated from Keio University with a BA in law and also studied at Williams College in Massachusetts.



Ichiro AISAWA

Member, House of Representatives (Liberal Democratic Party, LDP); Co-Chair, Diet Task Force, Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ)

A 12th-term member of the House of Representatives, Ichiro Aisawa served in Prime Minister Koizumi's Cabinet as state minister of foreign affairs from September 2003 to October 2005, representing Japan on a wide range of pressing international issues. First elected to the House of Representatives in 1986, he served in various positions, including acting secretary general of LDP, chairman of the House Committee on Budget, chairman of the House Committee on Foreign Affairs, parliamentary vice minister of trade and industry, and ranking member of the House Committee on Rules and Administration. He also serves as chairperson of the Japan-AU Parliamentary Friendship Association, the UNHCR Parliamentary Association, the Japan-Australia Parliamentary Friendship Association and the Japan-Myanmar Parliamentary Friendship Association. A 1979 graduate of Keio University majoring in administration engineering, he studied further at the Matsushita Institute of Government and Management, founding the Okayama division of the institute in 2002.



Peter SANDS

Executive Director, The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria

Peter Sands assumed his current position in March 2018 after a distinguished career in banking, most notably as CEO of Standard Chartered PLC (2006-15). Under his direction, Standard Chartered focused its corporate responsibility initiatives on health issues, including avoidable blindness, AIDS and malaria. During this time, he served on the board of the Global Business Coalition on AIDS, Tuberculosis and Malaria and was lead non-executive director on the board of the UK Department of Health. After Standard Chartered, he was a research fellow at the Harvard Global Health Institute and the Mossavar-Rahmani Center for Business and Government at Harvard Kennedy School working on projects at the interface of global health and international finance, published in the New England Journal of Medicine and The Lancet. In 2015-



16, he chaired the U.S. National Academy of Medicine's Commission on a Global Health Risk Framework for the Future, which published "The Neglected Dimension of Global Security: a Framework to Counter Infectious Disease Threats" in 2016. In 2016-17, he chaired the International Working Group on Financing Pandemic Preparedness at the World Bank. Sands is also a member of the U.S. National Academy of Science's Forum on Microbial Threats and has served on numerous boards and commissions, including the UK's National Institute for Economic and Social Research, International Advisory Board of the Monetary Authority of Singapore, Institute of International Finance, and World Economic Forum. Sands graduated from Brasenose College, Oxford University (and from Harvard University with a Master's in Public Administration).

Satoko ITOH

Managing Director and Chief Program Officer, JCIE; Assistant Director, FGFJ

Satoko Itoh joined JCIE in 1988. She currently leads a wide range of global health programs including Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ) which she has been involved in since its inception in 2004 and currently serves as its assistant director. From 1997 until 2004, she operated the Levi Strauss Foundation's Donor Advised Fund, the first such grant program in Japan created on behalf of an overseas corporate foundation. This provided funds to Japanese nonprofit organizations for activities tackling issues of HIV/AIDS, economic empowerment, and social justice. She has since helped launch and facilitate a number of other corporate giving programs, encouraging the Japanese private sector to become actively engaged in achieving UHC and health equity. Ms. Itoh has an extensive network, having worked closely with representatives of various ministries, the private sector, and key CSOs. Her expertise lies in navigating the complicated dynamics and politics of various actors in the global health community in Japan. She contributed to the formation of Japan's new Global Health Strategy as a member of the Task Force on Global Health Strategy organized by the Cabinet Secretariat in 2021-22. She holds a BA from Keio University and an MA in area studies from the School of Oriental and African Studies, University of London.



Keichi HARA

Deputy Assistant Minister/Deputy Director-General for Global Issues, Minister's Secretariat, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs (MOFA); Board Member of the Global Fund

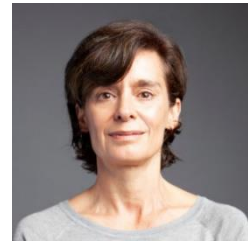
Born in 1969 in Hyogo Prefecture, Keiichi Hara joined the Ministry of Foreign Affairs immediately after graduating from the University of Tokyo in 1992. He served as third secretary at the Japanese Embassy in Senegal (1997-99), then in the Middle Eastern and African Affairs Bureau (1999-2001), before being assigned to the Policy Planning Division of the Foreign Policy Bureau (2001-03) and as secretary to the Vice Minister at the Minister's Secretariat (2003-04). In 2004, he was dispatched to the Japanese Embassy in France as first secretary. He was appointed principal deputy director of the Regional Policy Division of the Asian and Oceanian Affairs Bureau upon his return to Japan in 2008. He then assumed the same position in the Financial Affairs Division of the Minister's Secretariat (2010-12) and the International Cooperation Bureau (2012-13) before being appointed director of the Policy Planning Division of the European Affairs Bureau (2013-15) and director of the Country Assistance Planning Division of the International Cooperation Bureau (2015-17). In 2017, he was assigned to the Japanese Embassy in Afghanistan, first as counselor, later as minister, and served as minister to the Japanese Embassy in China (2019-21) before assuming his current position in April 2021.



Carmen Pérez CASAS

Senior Technical Manager, Strategy team, Unitaid

Carmen brings more than twenty years' experience in pharmaceutical policies, partnerships, strategic planning, grant-development and evaluation. Before joining Unitaid in 2012, she worked with diverse international organizations including Médecins sans Frontières, and global health institutions such as the Global Fund, always focused on overcoming barriers to health access, and scale-up of the best drugs and diagnostics in resource-limited settings. She holds a bachelor's degree in pharmacy, and a master's in virology.



Osamu KUNII, MD, PhD, MPH

CEO and Executive Director, Global Health Innovative Technology Fund (GHIT)

Osamu Kunii, MD, PhD, MPH, is currently serving as CEO and executive director of the Global Health Innovative Technology Fund (GHIT), which promotes R&D of therapeutics, diagnostics and vaccines against infectious diseases such as neglected tropical diseases, tuberculosis and malaria. In the past 30 years he has been engaged in global health, especially infectious diseases control, humanitarian emergencies, and maternal and child health, through the Global Fund, UNICEF, academia, Japanese Ministry of Foreign Affairs and other institutions.

He has lived and worked in various countries in all the continents, such as Brazil, India, Myanmar, Somalia and Switzerland, and love various activities such as Yoga, meditation, Karaoke, diving and mountaineering.



Seiya KATO, MD, PhD

Director, Research Institute of Tuberculosis, Japan Anti-Tuberculosis Association (JATA)

Seiya Kato is a 1981 graduate of Sapporo Medical University and worked at its affiliated hospital for 12 years as a doctor specializing in respiratory medicine. In 1993, Dr. Kato moved to the public sector of Sapporo Municipal Government serving in the work of public health. In 2000, he joined the Japan Anti-Tuberculosis Association (JATA). That summer, he was dispatched to the Philippines as a chief advisor to the National Philippine Tuberculosis Project from the Japan International Cooperation Agency (JICA) on a three-year contract. In 2003, he returned to JATA as the head of the anti-tuberculosis department, then moved up the ladder to serve as head of the R&D Department, vice director of JATA and assumed his current position in April 2017. He concurrently serves as a member of the Strategic and Technical Advisory Group (STAG) on Tuberculosis at the WHO headquarters (from June 2018 to present); the Technical Advisory Group (STAG) on Tuberculosis at WHO WPRO (from December 2019 to present); and chairperson of the Tuberculosis Committee of the National Health Science Council, Ministry of Health, Labour and Welfare (from February 2013 to January 2023).



Yoshihiro OKADA

General Manager, In Vitro Diagnostics Div. Medical Systems Business Division, FUJIFILM Corporation

Prior to joining Fujifilm, Yoshihiro Okada worked for another electronic product manufacturer, where he built his career engaging in multiple product development as a researcher.

In 2006, he joined Fujifilm continuing his career in the R&D division. Over the course of years, he led diverse range of medical device development including digital X-ray detector, clinical chemistry analyzer using dry



reagents, and immunochromatographic kits for infectious diseases. He became the divisional manager at IVD Division in 2017 and engaged in the development of multiple immunochromatographic products adopting the Silver Amplification technology. He also spearheaded the establishment of Vietnam manufacturing company for the IVD products. He became the general manager at IVD Business Division in 2021. He is now responsible for global marketing, business development, and product development for all IVD products.

Masanori KAWASAKI

Global Project Leader of TB Project, Pharmaceutical Business Division, Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.

Masanori Kawasaki joined Otsuka Pharmaceutical as a researcher in 1998 to work on research into, and the discovery of, antimicrobial agents. He was transferred to Otsuka Maryland Research Institute in 2009 in the USA and then to Otsuka Pharmaceutical D&C in 2011 to engage in the clinical development of anti-tuberculosis drug and new tuberculosis diagnostics. He moved back to Otsuka's headquarters in Tokyo in 2014 and has been concentrating on global access to Delamanid, and the clinical development of a new anti-tuberculosis drug. Since 2020, he has been working as global project leader of TB Project. He received a Commendation for Science and Technology from the Japanese Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology for the Research and Development of Delamanid, an effective treatment for multi-drug resistant tuberculosis, in 2016. He graduated from the Faculty of Agriculture and the Graduate School of Agriculture, Hokkaido University.



Yosuke KANEKO

CEO and Founder, SORA Technology

Yosuke Kaneko established SORA Technology in 2020 to build and operate infrastructure related to public health and medical care utilizing drones and their flight management system in order to contribute to the realization of Universal Health Coverage (UHC) in Africa and Asia. A graduate of Keio University majoring in economics, he had previously worked in the Strategy Division of Accenture, Inc., as chief strategy officer of Terra Drone Corporation, and a member of the Disaster Response Aviation Technology Team at the Aeronautical Technology Division of Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA). At JAXA, he was involved in the research and development of the Disaster Relief Aircraft Information Sharing Network (D-NET), which enables more efficient relief operations by sharing information between helicopters and drones and disaster response headquarters during disasters. He has also contributed to airspace control and operational support for the Tokyo 2020 Olympics and Paralympics.



Shigeyuki KANO, MD, PhD

Director, Department of Tropical Medicine and Malaria, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine (NCGM); Member, FGFJ; Former member of TRP for Malaria, The Global Fund

After graduating from Gunma University School of Medicine, Shigeyuki Kano completed the doctoral course at the same university and worked as assistant professor in the Department of Parasitology, Faculty of Medicine until being appointed to his current position in 1998. He has continued malaria control research in the Southeast Asian region while also serving as visiting professor at Royal Mahidol University of Thailand and the University of the Philippines. Since 2013, he has been pursuing malaria research and development with the National Pasteur Institute of Laos and the SATREPS project. In 2022, he was awarded the Foreign Minister's Commendation for these achievements. For four years from 2017, he served as a



member of the Malaria Technical Review Panel (TRP) of the Global Fund and joined the FGFJ Advisory Board since 2018.

Professor Kano has served as president of the Japanese Society of Tropical Medicine (2015-2017), and currently is a board member of the Japan Association for International Health, Japanese Society of Travel and Health, Japanese Society of Clinical Parasitology, the Japanese Society of Parasitology, member of ASTMH, and fellow of RSTMH. He is serving as an advisor of JICA (Japan International Cooperation Agency) for the malaria control project under Japanese ODA.

Tetsuya ITANI

Director, Office of Global Health Cooperation, Ministry of Health, Labour and Welfare

Tetsuya Itani joined the Ministry of Foreign Affairs (MOFA) in 2004, where he was in charge of foreign policy in various areas such as global environment, science and technology, and space. He also dealt with development cooperation policy and Official Development Assistance (ODA) budget, and international organizations including the United Nations and specialized agencies. From 2019 to 2022, as head of the Political Section at the Embassy of Japan in Malaysia, he made efforts to respond to the COVID-19 pandemic. He has been in his current position since July 2022. He graduated from the Faculty of Law of Kobe University.



Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ)

Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ) is a private initiative launched in 2004 and operated by the Japan Center for International Exchange (JCIE), which is one of Japan's leading nonprofit, nonpartisan foreign affairs institutes since 1970. The initiative aims to promote greater understanding of the Global Fund; raise awareness about the three major communicable diseases; mobilize greater contributions from all sectors of society, including key leaders and officials from government, business, academia and the nonprofit sphere, in responding to communicable diseases as a human security challenge; and encourage greater collaboration among Japanese and overseas organizations in the global fight against communicable diseases.

As JCIE has been a leading voice in the field of human security – a central component of Japan's foreign policy – FGFJ works closely with JCIE's Program on Global Health and Human Security to promote synergies between Japan's response to communicable diseases and its efforts to strengthen health systems and contribute more broadly to human security.

Japan Center for International Exchange: <https://www.jcie.org/>

Friends of the Global Fund, Japan: <https://fgfj.jcie.or.jp/en/>

GHIT Fund

The GHIT Fund is a Japan-based international public-private partnership fund (PPP) that was formed between the Government of Japan, multiple pharmaceutical companies, the Bill & Melinda Gates Foundation, Wellcome, and the United Nations Development Programme (UNDP). The GHIT Fund invests and manages an R&D portfolio of development partnerships aimed at addressing neglected diseases such as malaria, tuberculosis, and neglected tropical diseases that afflict the world's vulnerable and underserved populations. The GHIT Fund mobilizes Japanese industry, academia, and research institutes to create new drugs, vaccines, and diagnostics for malaria, tuberculosis, and neglected tropical diseases, in collaboration with global partners. <https://www.ghitfund.org/en>

Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria

The Global Fund was created in January 2002 to respond to the formidable challenges presented by these diseases and their associated costs. The need for such a fund was raised at the Kyushu-Okinawa Summit, hosted by Japanese Prime Minister Yoshiro Mori in 2000, and took shape at the OAU (Organization of African Unity) Meeting in Abuja, the United Nations General Assembly Special Session on AIDS, and the Genoa Summit.

The Global Fund operates as a financial instrument, not an implementing entity. It attracts, manages, and disburses resources to fight AIDS, tuberculosis, and malaria. It raises funds from both governmental and nongovernmental sources, and it works with governments, UN organizations, NGOs, researchers, corporations, affected communities, and other partners to direct resources toward prevention, treatment, and care. Every year, it contributes close to US\$4 billion to programs in more than 100 countries around the world.

www.theglobalfund.org/en/